

グローバル・スタディーズの評価のための ATL スキルを基にしたルーブリック指標

スキル	1	2	3	4	5	6
思考スキル	課題解決のために考えたり、必要な知識を習得したりしている。 キーコンセプトについて漠然と知っている。 自分自身を振り返ることができる。	問題を捉える視点としてキーコンセプトを2つ以上を用いて 考えたり、課題を解決したりすることができる。 自分自身を振り返ることができる。	問題を捉える視点としてキーコンセプトを 4つ以上 用いて考えたり、課題を解決したりすることができる。 自分自身を客観的に振り返ることができる。	問題を捉える視点としてキーコンセプトを 6つ以上 用いて考えたり、課題を解決したりすることができる。 自分自身を客観的に振り返ることができる。	問題を捉える視点としてキーコンセプトを 8つ全て 用いて考えたり、課題を解決したりすることができる。 振り返りを通して、 自分自身を向上させることができる。	問題を捉える視点としてキーコンセプトの8つの中から 自分で適切なものを選び、活用することで 課題を解決することができる。 振り返りを通して、自分自身を向上させることができる。
コミュニケーションスキル (発表スキル)	ロイロノートのスライドを用いて発表できる。	補助手段（図表や写真等）を活用した ロイロノートのスライドを用いて発表できる。	補助手段を 効果的に（シンプルで） 活用したパワーポイント（PP）やグループスライド（GS）を用いた上で、 強弱や速さを工夫して 発表できる。	補助手段を効果的に活用したスライド（PPやGS）を用いた上で、強弱や速さを工夫して発表できる。 自分の主張を述べている。	補助手段を効果的に活用したスライド（PPやGS）を用いた上で、強弱や速さを、 非言語の面でも 伝え方を工夫して発表できる。 自分の主張を 証拠に基づいて明確に 述べている。	補助手段を効果的に活用したスライド（PPやGS）を用いた上で、強弱や速さを、非言語の面でも伝え方を工夫して発表できる。 自分の主張を証拠に基づいて明確に述べ、 新たな問題提起 ができる。
社会性スキル	話し合いやグループ活動に参加している。	話し合いやグループ活動で 仲間と協力でき、自分の意見を言う ことができる。	話し合いやグループ活動で仲間と協力ができ、自分の意見だけでなく、 仲間の意見を聞く ことができる。	話し合いやグループ活動で仲間と協力ができ、自分の意見だけでなく、仲間の意見を聞いて それにより新たな意見を構築 できる。	話し合いやグループ活動で仲間と協力ができ、自分の意見だけでなく、仲間の意見を聞いてそれにより新たな意見を構築できる。 ファシリテーターとなって、仲間の意見交換を促す ことができる。	話し合いやグループ活動で仲間と協力ができ、自分の意見だけでなく、仲間の意見を聞いて新たな意見を構築できる。 ファシリテーターとなって、仲間の意見交換を促し、 グループの意見をまとめ、問題解決 ができる。
自己管理スキル	提出物などを期限内に提出ができる。	提出物などを納得いく形で期限内に提出、完成 することができる。	計画を活用し 、提出物などを納得いく形で期限内に提出、完成することができる。	児童が自分で計画を活用、修正しながら 活用し、提出物等を納得いく形で期限内に提出することができる。 集中して物事に取り組み、	児童が自分で皆生苦を活用、修正しながら活用し、提出物等を納得いく形で期限内に提出することができる。 集中して物事に取り組み、 何事にもリスクを恐れず挑戦 する。	計画を修正しながら活用し、提出物等を納得いく形で期限内に提出することができる。 集中して物事に取り組み、何事にもリスクを恐れず挑戦した上で 6ゴールズなどを使って振り返りを自律的に行う ことができ、 更に向上 できる。
調査スキル	自分の調べたいことに関して自分でサーチできる。	自分の調べたいことに関して自分で 様々な方法で サーチできる。 学問的誠実性について知り 、リサーチソースが 書かれている 。	自分の調べたいことに関して自分で様々な方法でサーチできる。 学問的誠実性について知り、リサーチソースが 正しく分かり易く 表示されている。	得たい情報に応じてリサーチ方法を選択 している。 学問的誠実性について 理解 し、リサーチソースが 分かり易く 表示されている。	得たい情報に応じてリサーチ方法を選択し、 リサーチソースを調た上で取舍 選択できる。 学問的誠実性について 理解 し、リサーチソースが 分かり易く 表示されている。	得たい情報に応じてリサーチ方法を選択し、リサーチソースを 取舍選択 した上で 集めた情報を解釈、分析、検証し、正しい情報を 選べる。 学問的誠実性について 理解 し、リサーチソースが 分かり易く 表示されている。

4年生全員到達レベル

4年生修了時目標レベル

5年生全員到達レベル

5年生修了時目標レベル

6年生全員到達レベル

6年生修了時目標レベル

2、作成の目的

- (1) 今までグローバル・スタディーズの評価は実質グローバル・スタディーズ授業担当者の主観に頼っていたが、本ルーブリックを利用することでグローバル・スタディーズの児童評価方法・視点に系統性をもたせたい。
- (2) 授業者だけでなく、児童も自己評価や目標設定に利用できるルーブリック指標にしたい。
- (3) 学年ごとの到達レベルを設定することで、児童・授業者にとっての目標としたい。

3、見方

- (1) 青字はそれぞれ左側のスキルレベルの文言から新たに付け加わったり変更があったりした文言である。
- (2) それぞれの学年に到達してほしいスキルレベル（全員到達レベルと到達目標レベル）を提示している。

4、使い方

- (1) 年度初めのグローバル・スタディーズの授業で評価…つまり、目指すスキルレベルについてこのルーブリック指標を使って児童と共有する。
その際に、その時点のスキルレベルについて自己評価し、到達目標について考えさせる機会をもつ。
- (2) 現行のグローバル・スタディーズ・レポートの代わりとして利用する。その際、文言を学年ごと、単元ごとに変更するかどうかは検討事項とする。
- (3) 児童は、単元の最後にこのルーブリック指標を利用したレポート（裏面）を見ながら自分自身の学習を振り返り、次の単元における到達目標を考える。

5、作成の際のキーワード

- | | |
|------------------|---|
| (1) 思考スキル | ・批判的思考 ・創造的思考 理解 ・応用 ・分析 ・統合 ・メタ認知 ・振り返り ・知識の習得 ・評価 ・複雑な問題を分析 ・理性的倫理的な判断 ・精査した情報を基に自分の考えを形成
・キーコンセプト ・転用スキル ・可視化 |
| (2) コミュニケーションスキル | ・非言語コミュニケーション ・完結で明確 ・補助手段 ・複雑なテキスト作成 ・読み取り ・説得力 ・状況や目的に沿って ・自分の主張 ・スライドの作り方、見せ方 |
| (3) 社会性スキル | ・思いやり ・意見交換 ・協働 ・議論に参加 ・異なる観点に触れる ・他人の意見を取り入れる ・チームワーク ・責任 ・交渉 ・難題に取り組む ・高次の思考 ・意思決定 |
| (4) 自己管理スキル | ・時間の管理、調整 ・情意スキル ・立ち直る力 ・誤りは自分を向上させる ・自己動機付け ・集中力 ・マインドフルネス ・計画 ・振り返り ・安全性 ・予定表を計画 |
| (5) 調査スキル | ・情報収集 ・情報量に対処 ・適正なりサーチソース ・情報活用 ・学問的誠実性 ・参考文献の引用 ・情報が伝わりやすい ・エビデンス ・情報リテラシー ・自律的 ・リサーチ方法 ・リサーチ技術 |

6、参考文献

- ・PYPの作り方：初等教育のための国際教育カリキュラムの枠組み
- ・IB・ディプロマ・プログラム「指導の方法」と学習の方法」 https://ibpublishing.ibo.org/dpatIn/apps/dpatI/guide.html?doc=d_0_dpatI_gui_1502_1_j&part=2&chapter=1 (2021年1月18日)
- ・中学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編
- ・中央教育審議会高等学校教育部会「批判的思考について～これからの教育の方向性の提言～」楠見孝（平成24年9月7日）
- ・西岡加名恵 編（2016）『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』明治図書出版
- ・西岡加名恵 編（2018）『Q&Aでよくわかる！「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』明治図書出版
- ・Susan M. Brookhart (2013). *How to Create and Use RUBRICS*. ASCD.